

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 6 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520816

研究課題名(和文)道宣著作の研究

研究課題名(英文)A Study for the Writing of Daoxuan

研究代表者

大内 文雄(Outi, Fumio)

龍谷大学・文学部・教授

研究者番号：50103114

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：唐・道宣(596-667)は、唐初期の仏教が持つ様々な難題に取り組み、後世の戒律・仏教史学へ甚だ大きい影響を及ぼした。そこで本研究は、道宣が遺した多種多様な著作群の全体像を把握し、道宣の思想と行動の跡を総合的に解明するため、それら諸著作中の序文等の読解作業を会読形式で行った。これらは当時の仏教思想・歴史学・目録学等に関わる、道宣自身によって述べられた文章の現代語訳化の第一歩となる成果である。

研究成果の概要(英文)：Daoxuan(596-667), engaging with various challenges in early Tang Buddhism, had a large impact on future generations' grasp of Buddhist precepts and history. Therefore, we were reading the prefaces to his various writings, in order to understand an overview of his works and clarify his thought and activities. The results of this study are a first step toward translating these works by Daoxuan into modern Japanese. It will be to the advantage of researchers of Buddhism, Chinese history, and bibliographical study.

研究分野：東洋史・仏教史学

キーワード：東洋史 仏教史 戒律 経典目録 護法 三教論争

1. 研究開始当初の背景

唐・道宣(596 - 667)は、唐初期の仏教が持つ様々な難題に、同時代人として取り組み、後世の戒律学・仏教史学へ甚だ大きい影響を及ぼしている。しかしながら従来の道宣研究は、史学や仏教学などに分断されて研究が進められていたため、多岐にわたる道宣の思想や著作活動の全体像が把握しにくいという問題があった。

そのような中で、藤善眞澄氏の『道宣伝の研究』(京都大学学術出版会、2002)の刊行により、道宣の生涯に関する足跡や、諸著作の成立年代などが明らかとなってきた。そこで今後の学界の課題として、歴史・思想史など様々な観点から、道宣の行動や思想を読みとる総合的な研究が期待されるのである。

2. 研究の目的

本研究は、上述の藤善氏の研究成果を基礎として、道宣が遺した多種多様な著作群の全体像を把握し、道宣その人の思想と、彼を取り巻く時代と社会、及び仏教の実態を総合的に解明することを目的としている。

具体的には道宣の諸著作に付されている前序・篇序・後序等の序文を読解し、詳細な語注を含む現代語訳の作成を目指すものである。

3. 研究の方法

道宣の著作は広範囲にわたるが、これらを以下の4種に分類し、それぞれに担当者を割り振り、諸著作中の序文等の読解作業を会誌形式で行った。

第1群：戒律に関わる著作群

『四分律刪繁補闕行事鈔』十二巻を始めとして、『四分律含注戒本』三巻等の、序を有する11部が数えられる。これらは数多い道宣著作の中でも最も主要な部分をなし、その著述期間もごく初期から最晩年に至る彼のほぼ全生涯にわたる。

第2群：經典目録

これについては『大唐内典録』十巻があるのみであるが、唐代に編纂された經典目録の嚆矢として重要な位置を占めている。仏教經典の収集保存の基準を示す「入蔵録」はその後の時代に大きな影響を与え、また彼の歴史観・仏教史観を知る史料でもある。

第3群：史伝関係の著作

中国仏教史研究の基礎史料となるものである。『続高僧伝』三十巻や『釈迦氏譜』一巻、『釈迦方志』二巻、『集神州三宝感通録』三巻、『道宣律師感通録』一巻の5部があり、また戒律関係の史伝記録として『律相感通伝』一巻がある。

第4群：護法・三教論争に関係する著作群
ここには『広弘明集』三十巻、『集古今仏道論衡』四巻が含まれる。中国仏教史・思想史上の最も重要とされる史料集である。

以上の諸著作の前序・篇序・後序の読解にあたっては、それぞれの担当者がいずれも原漢文の釈文・訓読・訳文・語注を作成し、隔週で開催される研究会の場で議論を重ねた上で成果公表へと準備を進めていく。釈文の底本は大正新脩大蔵経及び大日本続蔵経を用い、各種版本や大谷大学所蔵の和刻本等を校勘に用いる。また、語注では仏典・中国古典・道宣の著作などの用例を示すことによって意味の検討を行った。

4. 研究成果

本研究では、道宣の諸著作中の前序・篇序・後序等の序文について、いずれも原漢文の釈文・訓読・訳文・語注の順に作成し、特に訳文では幅広い層の人が参照・理解し得るわかりやすい現代語訳の作成を心掛けた。

これらは隋・唐代初期を代表する戒律学・歴史学・目録学また思想史に関わる、道宣自身によって述べられた文章の現代語訳化の第一歩となる研究成果である。

本研究期間内に完了した訳注稿は、大内文雄編「道宣著作の研究 道宣著作序文訳注稿」(『大谷大学真宗総合研究所研究紀要』第30号、2013)としてすでに公表し、またこれの続編として「道宣著作の研究 道宣著作序文訳注稿(二)附・語彙索引」(平成24~27年度科学研究費助成事業[基盤研究(C)]研究成果報告書「道宣著作の研究」研究代表者・大内文雄 2016)として刊行した。

以下に、すでに公表した訳注稿について、著作名と担当者名を列挙する。

第1群：戒律に関わる著作群

『四分律含注戒本疏』序(戸次顕彰)
『四分律刪補隨機羯磨疏』序(戸次顕彰)
『四分律比丘尼鈔』序(松岡智美)
『四分律刪繁補闕行事鈔』序(抄訳)(戸次顕彰)
『量処輕重儀』序(松岡智美)
『釈門章服儀』序・後序(松岡智美)

第2群：經典目録

『大唐内典録』序(大内文雄)

第3群：史伝関係の著作

『律相感通伝』序(松浦典弘)
『釈迦方志』序・後序(宮嶋純子)
『釈迦氏譜』序(宮嶋純子)

第4群：護法・三教論争に関係する著作群

『集古今仏道論衡』序(今西智久)
『広弘明集』総序(藤井政彦・河邊啓法)
『広弘明集』帰正篇序(藤井政彦)

『広弘明集』弁惑篇序(藤井政彦・河邊啓法)
『広弘明集』仏徳篇序(今西智久)
『広弘明集』法義篇序(宮嶋純子)
『広弘明集』僧行篇序(桐原孝見)
『広弘明集』慈濟篇序(松岡智美)
『広弘明集』誠功篇序(宮嶋純子)
『広弘明集』啓福篇序(藤井政彦)
『広弘明集』悔罪篇序(松浦典弘)
『広弘明集』統歸篇序(大内文雄)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

宮嶋純子、日中四分律論書における語義解釈の比較 元照『資持記』と照遠『資行鈔』を中心として、関西大学東西学術研究所紀要、査読有、第49輯、2016、61-77頁。

宮嶋純子、道宣『釈迦方志』にみる、唐代仏教学者の世界観、佛教史学研究、査読有、第57巻第2号、2015、60-80頁。

松浦典弘、新出の唐代尼僧墓誌について、大谷大学真宗総合研究所研究紀要、査読有、第32号、2015、53-69頁。

戸次顕彰、道宣の『四分律行事鈔』撰述とその背景 僧祐の著作活動との類似性、仏教学セミナー、査読無、第100号、2014、50-75頁。

戸次顕彰、『四分律行事鈔』の文献的性格について、印度学仏教学研究、査読有、第63巻第1号、2014、11-15頁。

今西智久、北周末の宗教政策 陟岵寺菩薩僧小考、大谷大学史学論究、査読無、第19号、2014、1-31頁。

大内文雄(編) 戸次顕彰、松岡智美、松浦典弘、今西智久、藤井政彦、河邊啓法(以上、分担執筆)、道宣著作の研究 道宣著作序文訳注稿、大谷大学真宗総合研究所研究紀要、査読無、第30号、2013年、1-98頁。

今西智久、隋仁寿舍利塔事業の基礎的考察 「勅使大徳」と起塔地をめぐって、大谷学報、査読有、第92巻第2号、2013、46-70頁。

戸次顕彰、道宣の四種三宝説について 住持三宝の存在意義を中心として、印度学仏教学研究、査読有、第61巻第1号、2012、217-221頁。

[学会発表](計11件)

大内文雄、隋代経録考、第66回佛教史学会

学術大会、2015年11月22日、花園大学(京都市)

戸次顕彰、四分律学の系譜と南山道宣 『五部区分鈔』から『四分律行事鈔』へ、第66回佛教史学会学術大会、2015年11月22日、花園大学(京都市)

松浦典弘、唐代の女性と仏教、唐代史研究会夏期シンポジウム、2015年8月18日、早稲田大学(東京都)

宮嶋純子、唐代仏教学者の歴史観 玄奘の帰還を画期として、平成27年度東アジア仏教研究会定例研究会、2015年5月16日、大正大学(東京都)

大内文雄、縮刷蔵経から大正蔵経へ、佛教大学宗教文化ミュージアム秋期特別展関連シンポジウム、2014年11月3日、佛教大学宗教文化ミュージアム(京都市)

宮嶋純子、蓮池海会寺版『佛祖統紀』について、ベトナム社会科学アカデミー漢喃研究院研究報告会、2014年9月17日、ベトナム社会科学アカデミー漢喃研究院(ベトナム・ハノイ)

戸次顕彰、『四分律行事鈔』の文献的性格について、日本印度学仏教学会第65回学術大会、2014年8月31日、武蔵野大学有明キャンパス(東京都)

松浦典弘、墓誌に見える唐代の女性と仏教、中国中世研究者フォーラム、2014年8月2日、京都大学吉田南キャンパス(京都市)

松浦典弘、山西省の唐代の寺碑—山西現地調査の報告を兼ねて—、シンポジウム「六朝隋唐時代をめぐる仏教社会基層構造」、2013年1月13日、明治大学(東京都)

藤井政彦、道宣における感通について、第63回佛教史学会学術大会、2012年11月17日、大谷大学(京都市)

戸次顕彰、道宣の四種三宝説について、日本印度学仏教学会第63回学術大会、2012年6月30日、鶴見大学(横浜市)

[図書](計3件)

大内文雄(他) 臨川書店、牧田諦亮著作集 第3巻 中国仏教史研究2、2015、299-312頁。

宮嶋純子(他) 勉誠出版、仏教がつなぐアジア 王権・信仰・美術、2014、13-35頁。

大内文雄、法蔵館、南北朝隋唐期仏教史研究、2013、516頁。

〔その他〕

今西智久、新刊紹介 大内文雄著『南北朝隋
唐期仏教史研究』、佛教史学研究、第56巻第
2号、2014、58 - 64頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大内 文雄 (OUCHI, Fumio)
龍谷大学・文学部・特任教授
研究者番号：5 0 1 0 3 1 1 4

(2) 研究分担者

松浦 典弘 (MATSUURA, Norihiro)
大谷大学・文学部・准教授
研究者番号：8 0 3 1 9 8 1 3

戸次 顕彰 (TOTSUGU, Kensho)
大谷大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：5 0 5 4 9 5 4 0

今西 智久 (IMANISHI, Tomohisa)
大谷大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：6 0 6 3 5 3 7 4

宮嶋 純子 (MIYAJIMA, Junko)
関西大学・東西学術研究所・研究員
研究者番号：8 0 6 1 2 6 2 1
(平成26年度より研究分担者)

藤井 政彦 (FUJII, Masahiko)
大谷大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：1 0 5 1 4 3 3 3
(平成26年度まで研究分担者)

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

松岡 智美 (MATSUOKA, Tomomi)
河邊 啓法 (KAWABE, Hironori)
桐原 孝見 (KIRIHARA, Koken)